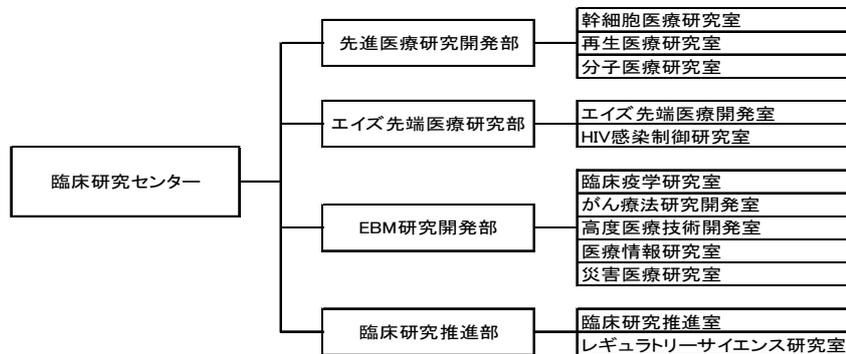


# 臨床研究センター

センター長 上松正朗

当臨床研究センターもセンターとなって9年目を迎えた。国立病院機構では平成17年度より新たな研究業績評価が開始されたが、当院は常に1-2位の座を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコル作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。日常臨床が多忙を極める中で、治験を含めた臨床研究への積極的な大阪医療センターの取り組みが評価されたものとする。平成20年度より、当院および九州医療センターはその業績を認められ、臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなった。それにともない、組織は1部5室から2部9室と改変し、それまで治験管理センターとして病院内の組織であった治験管理部門を新たに臨床研究も含めた支援室、臨床研究推進室として研究センターの元におくこととなった。平成23年度からは、新たに高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室を開設し、3部11室となった。これまでと同様、文部科研に応募を希望する医師については、併任発令を行い、これに対応した。また、院内の多くの医師が臨床研究に携わっていること、本部からの研究助成金を研究業績に応じて一部分配することにより研究推進を図る目的で、平成18年度より医長以上の併任、英文論文筆頭著者併任をおこなうこととしている。平成25年度DMAT西日本拠点に指定されたのに伴い、平成26年度から災害医療研究室を加え4部12室となった。平成28年度の構成は以下のとおりである。



2016.4.1

## 先進医療研究開発部

### 幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、ヒトiPS細胞（人工多能性幹細胞）を用いて、再生医療の実現化に向けた技術開発研究を実施している。神経疾患の再生医療実現を目指し、iPS細胞から臨床グレードの神経幹細胞（ニューロンやグリア細胞を供給する能力を持った幹細胞）へと誘導する方法を開発し、臨床試験に向けて進めている。また、神経疾患患者の検体からiPS細胞を樹立し、神経幹細胞の誘導及び神経系細胞への分化を行い、疾患発症機序の解明にも取り組んでいる。

### 再生医療研究室

再生医療研究室では、各種幹細胞および免疫細胞等のヒト細胞を応用した「細胞治療」を

新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。さらに悪性脳腫瘍の分子診断体制を構築するための多施設共同研究体制の構築を実施した。

#### 分子医療研究室

分子医療研究室の主な研究課題は、難治性脳形成障害症（Fetal Brain Malformation; FBM）の胎児診断における診断基準の作成と患者由来検体の収集とその遺伝子解析及び臨床像解析の多施設共同研究の体制強化である。現在までに FBM 約 350 例が登録されている。従来の遺伝子解析に加え標的遺伝子検索システム（target sequencing system）と次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析（whole exome sequencing ; WES）を施行し、新規遺伝子変異を同定してきた。①脳室拡大が主な所見の水頭症群②全前脳泡症の群③小頭症群④細胞移動障害を呈する群⑤骨系統疾患の群⑥後頭蓋窩フリーエコー病変⑦大頭症群⑧二分脊椎症群⑨胎内頭蓋内出血あるいは水無脳症・裂脳症・孔脳症群⑩脳梁欠損群において解析遺伝子のパネル化作成を進めている。

#### **エイズ先端医療研究部**

##### エイズ先端医療開発室

##### HIV 感染制御研究室

海外同様、わが国、特に大阪でも HIV 感染症患者数は増え続けており、毎年、新規 HIV 感染者、エイズ患者数は増加の傾向にある。治療の進歩によって HIV 感染症の予後は大きく改善されたが、エイズ医療では多くの課題が未だ残されている。約 20 年以上前に血液製剤で感染した患者の多くは C 型肝炎との重複感染であり治療が困難な例が多い。その後、増えている性感染症としての HIV 感染症患者では 20 歳代、30 歳代が多く、社会的、経済的に不安定な者も少なくなく、セクシャリティーなどマイノリティーでの課題も抱えている。当研究室では、この様な多くの課題の中で、HIV 感染症治療、エイズ医療の分野を中心とした研究を進め、主に厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業、財団法人友愛福祉財団の調査研究事業、独立行政法人国立病院機構の共同研究等に取り組んできた。エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室（白阪が室長を兼務）と HIV 感染制御研究室（渡邊大室長）から成り、前者は医療についての研究、後者は基礎的研究を主に行っている。服薬アドヒアランスの向上に関する研究班、HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班では分担研究者と共に HIV 感染症のチーム医療の在り方、エイズ看護の在り方、長期療養の問題等と取り組んで来た。今後もエイズの治療と医療に付き研究を進める。

#### **EBM 研究開発部**

##### 臨床疫学研究室

臨床疫学研究室では、臨床医学・アウトカムリサーチの実施基盤を確立し、データの集積・解析を行いつつエビデンスを形成し、コストベネフィットを解析する形態の臨床研究を行っている。疾患別では、主に消化器疾患に役立つ臨床研究を推進している。中でも当院の政策

医療の一つである肝臓疾患に関しては新規抗ウイルス剤の有効性と安全性を検討している。C型およびB型肝炎治療は直接ウイルスの複製をおさえる薬剤が開発されているが、耐性化の問題が報告され、その対応策を特に研究している。従来から厚生労働科研、国立病院機構ネットワーク共同研究などの公的助成や民間助成を得て成果を上げており、今後も他施設での共同研究を積極的に進めたい。

#### がん療法研究開発室

現在のがん医療は、オーダーメイド医療という語に代表される各個人のがんの種類や特徴に応じた診断や治療が行われている。病気や病態の違いの多くは分子異常の違いによって生じるものと考えられており、本研究室では、外科手術時などに得られたがん組織を利用してがんにおける分子異常を探り、以下のような研究を行い、新たながんの診断や治療戦略の開発をめざしている。1) 基礎研究との有機的な共同研究：臨床材料を用いて得られた研究結果と臨床資料との対応、臨床材料を利用した発がん、増殖、転移に関わる責任分子を抽出、同定し、治療標的分子を明らかにする。2) 分子異常に基づいた新たな腫瘍マーカーの開発。3) 抗がん剤や放射線治療の感受性や耐性に関与する分子の分離とその臨床応用。4) 1)～3)の成果を利用した全国規模の多施設共同臨床試験への参加および自主的臨床研究の企画もおこなっている。

#### 高度医療技術開発室

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。医用画像診断装置の技術開発により低侵襲化、従来視覚化困難であった部位や現象の画像化が可能になりつつあり、そこから新たな治療が生まれる可能性がある。これらの技術開発には医工連携すなわち病院、大学、企業との連携体制の構築が必要であるが、米国における産学連携の仕組みや組織と比較すると本邦ではまだまだ発展の余地が多いと言える。病院における医療現場のニーズを企業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでいくことが、病院に付属する本研究室の最も重要な役割である。平成24年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進している。また、平成28年度は院内臨床症例（心房細動および心不全症例）の心臓超音波画像解析も並行して開始し、業績発表を海外で行った。

#### 医療情報研究室

医療情報研究室では、医療へのIT応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。整形外科領域におけるシミュレーションを用いた研究、病院において実稼働している病院情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。最近では南海トラフ巨大地震、首都直下型地震の医療機関被災状況シミュレーションやDMAT配置計画等、

国の災害対策の元となるデータの供給も行なっている。

### 災害医療研究室

国立病院機構の組織的災害医療対応、放射線災害に対する診療支援体制の確立、災害時の遠隔医療支援システムの確立は災害医療に係わる継続的な活動となっており、日本DMAT事務局の担っている役割でもある。災害に関連した研究としては、平成26年度の厚生労働省科学研究指定研究である南海トラフ巨大地震におけるDMATの役割に関する研究で報告した内容が日本DMATのあり方に反映された。分担研究として行った災害カルテの標準化に関する研究は、全国で災害時に用いる標準診療記録票として完成し、熊本地震では実災害で初めて用いられた。平成26～27年度厚生労働省科学研究の指定研究である首都直下地震におけるDMATの役割に関する研究もすでに報告書を提出し、災害医療の中心的役割を担う災害拠点病院の実態について明らかにした。今後も厚生科学研究の分担研究として、南海トラフ巨大地震への医療対応について、再調査を行い、広域に及ぶ巨大地震における医療対応の戦略に関する研究を継続することとしている。また、災害時の被災者災者に関する疫学的研究の基礎的データとなり得る標準的診療記録票に関する研究も継続する予定である。

### **臨床研究推進部**

#### 臨床研究推進室

臨床研究推進室は、治験や臨床研究の円滑な実施とその質を保証することを目的として平成11年4月に「治験管理センター」として開設され、本年度で18年目を迎えている。平成20年度からは臨床研究部が臨床研究センターに昇格したのを機に、「治験管理センター」から「臨床研究推進室」へと組織および名称変更を行った。

臨床研究推進室には「治験管理部門」「臨床試験支援部門」があるが、治験管理部門が治験以外の臨床研究支援も含め、活動の中心となっている。主な活動として、治験の全体的なコーディネーションを担うとともに、治験の契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。

平成26年度には、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けることができた（平成27年3月31日付）。今後は、外部からの審査受け入れも積極的に行っていきたい。

#### レギュラトリーサイエンス研究室

レギュラトリーサイエンスは、平成23年8月の科学技術基本計画では「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会とも調査の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。平成26年11月には、薬事法が「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に改正され、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」が制定された。いずれも平成27年11月から施行されている。このようなレギュラトリーサイエンスの対象領域の拡張を踏まえ、当研究室では、医師、医療従事者のみならず、他分野の研究者、知識人との連携・協力により、特に、再生医療・細胞治療・遺伝子治療といった先端医学、ゲノム科学をとり入れた臨床研究、あるいは新たな感染症対策などの分野において、先進医療につ

いて、最新の科学的技術・知識に基づく予測・評価を行うとともに、社会との調和を図ることをテーマとしている。

【2016年度 研究発表業績】

A-0

Iida O, Takahara M, Soga Y, Hirano K, Yamauchi Y, Zen K, Yokoi H, Uematsu M; ZEPHYR investigators. : Incidence and its characteristics of repetition of reintervention after drug-eluting stent implantation for femoropopliteal lesion. 「J Vasc Surg」 2016 Dec;64(6):1691-1695.e1. doi: 10.1016/j.jvs.2016.05.074.PMID: 27575807

Iida O, Takahara M, Soga Y, Hirano K, Yamauchi Y, Zen K, Kawasaki D, Nanto S, Yokoi H, Uematsu M; ZEPHYR Investigators. : The Characteristics of In-Stent Restenosis After Drug-Eluting Stent Implantation in Femoropopliteal Lesions and 1-Year Prognosis After Repeat Endovascular Therapy for These Lesions. 「JACC Cardiovasc Interv」 2016 Apr 25;9(8):828-34. doi: 10.1016/j.jcin.2016.01.007.PMID: 27101908

Okamoto S, Iida O, Takahara M, Yamauchi Y, Hirano K, Soga Y, Suzuki K, Uematsu M : Impact of Perioperative Complications After Endovascular Therapy in Diabetic Patients With Critical Limb Ischemia due to Isolated Infrapopliteal Lesions. 「J Endovasc Ther」 2016 Apr;23(2):371-7. doi: 10.1177/1526602816632712.PMID: 26874179

Ishihara T, Takahara M, Iida O, Soga Y, Hirano K, Yamauchi Y, Zen K, Kawasaki D, Nanto S, Yokoi H, Uematsu M, ZEPHYR Investigators. : Comparable 2-Year Restenosis Rates Following Subintimal and Intraluminal Drug-Eluting Stent Implantation for Femoropopliteal Chronic Total Occlusion. ZEPHYR Investigators. 「J Endovasc Ther」 2016 Dec;23(6):889-895.PMID: 27566704

Ishihara T, Iida O, Okamoto S, Fujita M, Masuda M, Nanto K, Shiraki T, Kanda T, Tsujimura T, Okuno S, Yanaka K, Uematsu M : Potential mechanisms of in-stent occlusion in the femoropopliteal artery: an angioscopic assessment. 「Cardiovasc Interv Ther」 2016 Jul 18. [Epub ahead of print]. PMID: 27430638

Okamoto S, Iida O, Takahara M, Yamauchi Y, Hirano K, Soga Y, Suzuki K, Uematsu M : Impact of Perioperative Complications After Endovascular Therapy in Diabetic Patients With Critical Limb Ischemia due to Isolated Infrapopliteal Lesions. 「J Endovasc Ther」 2016 Apr;23(2):371-7. doi: 10.1177/1526602816632712. PMID: 26874179

Okuno S, Iida O, Shiraki T, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Takahara M, Uematsu M : Impact of Calcification on Clinical Outcomes After Endovascular Therapy for Superficial Femoral Artery Disease: Assessment Using the Peripheral Artery Calcification Scoring System. 「J Endovasc Ther」 2016 Oct;23(5):731-7. doi: 10.1177/1526602816656612.PMID: 27369975

Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Shiraki T, Sunaga A, Matsuda Y, Uematsu M : Steerable versus non-steerable sheaths during pulmonary vein isolation: impact of left atrial enlargement on the catheter-tissue contact force. 「J Interv Card Electrophysiol」 2016

Oct;47(1):99-107.PMID: 27189157

Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Shiraki T, Sunaga A, Matsuda Y, Uematsu M : Influence of underlying substrate on atrial tachyarrhythmias after pulmonary vein isolation. 「Heart Rhythm」 2016 Apr;13(4):870-8. doi: 10.1016/j.hrthm.2015.12.029.PMID: 26711800

Yanaka K, Ishihara T, Iida O, Okamoto S, Fujita M, Masuda M, Nanto K, Shiraki T, Kanda T, Uematsu M : Yellow Neointima Following Stent Implantation in the Superficial Femoral Artery on Angioscopy. 「Circ J」 2016 Sep 23;80(10):2249-51. doi: 10.1253/circj.CJ-16-0409. No abstract available. PMID: 27488145

A-1

上松正朗 : 「新英語抄録・口頭発表・論文作成 虎の巻～忙しい若手ドクターのために」、(株)南江堂、2017年3月31日

A-4

上松正朗 : (特集 臨床研究は如何、そして発表と論文化) 考察の展開方法。「Coronary Intervention」 13 (2) : P50～53、メディアアルファ、2017年3月31日

上松正朗 : (特集 臨床研究は如何、そして発表と論文化) 指導方法 指導者から一言。「Coronary Intervention」 13 (2) : P63～66、メディアアルファ、2017年3月31日

A-5

Okuno S, Iida O, Soga Y, Kawasaki D, Yamauchi Y, Suzuki K, Hirano K, Koshida R, Kamoi D, Tazaki J, Higashitani M, Shintani Y, Yamaoka T, Okazaki S, Suematsu N, Tsuchiya T, Miyashita Y, Shinozaki N, De Santis A, Uematsu M : TCT-788 Safety and Efficacy of Endovascular Therapy for Octogenarians with Peripheral Artery Disease presenting Intermittent Claudication due to Aortoiliac Lesions. 「J Am Coll Cardiol」 2016 Nov 1;68(18S):B318-B319. doi: 10.1016/j.jacc.2016.09.819. No abstract available. PMID: 27970174

B-1

Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Leave light thing behind. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP 2016) Seoul, Korea, 2016年4月26-29日

B-2

Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : The characteristics of in-stent restenosis after drug eluting stent implantation in femoropopliteal lesions and 1-year prognosis after repeat endovascular therapy for these lesions. The American College of Cardiology 65nd Annual Scientific Session, Chicago, USA, 2016年4月2-4日

Ishihara T, Takahara M, Iida O, Soga Y, Hirano K, Yamauchi Y, Zen K, Kawasaki D, Nanto S, Yokoi H, Uematsu M : Comparable 2-Year Restenosis Rates Following Subintimal and Intraluminal Drug-Eluting Stent Implantation for Femoropopliteal Chronic Total Occlusion. The American College of Cardiology 65nd Annual Scientific Session, Chicago, USA, 2016年4月2-4日

Nanto K, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Shiraki T, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Yanaka K, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M : Successful endovascular treatment for renal artery occlusion of non-protected side after EVAR for juxtarenal aortic aneurysm using chimney method. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP 2016) Seoul, Korea, 2016年4月26-29日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗 : A Case Complicated with Incidence of Floating Stent Fracture 141 Months after Luminexx Nitinol Stent Implantation in the Superficial Femoral Artery. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP 2016) Seoul, Korea, 2016年4月26-29日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗 : The Impact of Coronary Artery Disease and Left Ventricular Ejection Fraction on the Prognosis of Patients with Peripheral Artery Disease. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP 2016) Seoul, Korea, 2016年4月26-29日

Okuno S, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Yanaka K, Matsuda Y, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Safety and Efficacy of Endovascular Therapy for Octogenarians with Peripheral Artery Disease presenting Intermittent Claudication due to Aortoiliac Lesions. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics (TCT2016) Washington DC, 2016年10月29日

Iida O, Takahara M, Soga Y, Hirano K, Yamauchi Y, Zen K, Yokoi H, Uematsu M : Incidence and its Characteristics of Repetition of Reintervention After Drug-Eluting Stent implantation for Femoropopliteal Lesion. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

Ishihara T, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Thrombogenicity of Platinum-chromium Everolimus-eluting Stent is Comparable Low to that of Cobalt-chromium Everolimus-eluting Stent in the Subacute Phase of Acute Myocardial Infarction. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

Nanto K, Iida O, Fujihara M, Tomoi Y, Soga Y, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Kanda T, Tsujimura T, Sunaga A, Yanaka K, Okuno S, Matsuda Y, Ohashi T, Uematsu M : Three-year Restenosis Rate and Its Predictors After Endovascular Therapy for Leriche Syndrome. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

Kanda T, Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Response to Isoproterenol Infusion may Predict Procedural Success Following Ablation for Atrial Fibrillation. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

Kanda T, Fujita M, Iida O, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Sunaga S, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : E/e'・SV is a Better Predictor of Outcome Than E/e' in Patients with Heart Failure with Preserved Left Ventricular Ejection Fraction. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

Yanaka K, Ishihara T, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Sunaga A, Okuno S, Matsuda Y, Ohashi T, Hata Y, Tsuji A, Kawai H, Uematsu M : Angioscopic Evaluation of Arterial Repair Following Second Generation Drug-eluting Stent Implantation in Acute Coronary Syndrome. Comparison With Non-Acute Coronary Syndrome. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

Matsuda Y, Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Severity of Chronic Kidney Disease Correlates With the Prevalence of Left Atrial Low-voltage Areas. American Heart Association, New Orleans, 2016年11月12-16日

### B-3

飯田 修、上松正朗 : EVT失敗後のバイパス手術例の予後。第44回日本血管外科学会学術総会、東京、2016年5月25日

飯田 修、上松正朗 : JET合同企画「最新の血行再建術 概念と実際」アンギオサムはあまり考えていません。第8回日本下肢救済・足病学会学術集会、東京、2016年5月27-28日

Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Leave the Right Thing Behind - for Your SFA Treatment. 第25回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016年7月7-9日

石原隆行、飯田 修、岡本 慎、藤田雅史、増田正晴、南都清範、白記達也、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、上松正朗 : EVT施行後の下肢閉塞性動脈硬化症病変の病態解明における血管内視鏡の有用性。第25回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016年7月7-9日

Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Ishihara T, Nanto K, Kanda T, Sunaga A, Tsujimura T, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M : Incidence and its Characteristics of Repetition of Reintervention after Drug-Eluting Stent implantation for Femoropopliteal Lesion. 第121回日本循環器学会近畿地方会、京都、2016年7月16日

飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：重症下肢虚血に対する血行再建術の現状と新たな挑戦。第 64 回日本心臓病学会学術集会、東京、2016 年 9 月 25 日

上松正朗：How to make an Abstract –海外学会で採択される抄録の作り方–。第 9 回 Japan Endovascular Treatment Conference (JET2017)、東京、2017 年 2 月 19 日

#### B-4

岡本 慎、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、石原隆行、南都清範、神田貴史、白記達也、須永晃弘、辻村卓也、上松正朗：JADE PTA balloon for peripheral complicated lesions. Slender club JAPAN 2016, 神戸、2016 年 4 月 8-10 日

神田貴史、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、奥野翔太、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：持続性心房細動アブレーション後の心エコー図パラメータの経時的変化。日本心エコー図学会第 27 回学術集会、大阪、2016 年 4 月 22-24 日

須永晃弘、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、南都清範、石原隆行、神田貴史、辻村卓也、上松正朗：経胸壁 3D 心エコー図による右室リードの三尖弁通過部位と三尖弁逆流の増悪に関する検討。日本心エコー図学会第 27 回学術集会、大阪、2016 年 4 月 22-24 日

神田貴史、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、白記達也、上松正朗：持続性心房細動アブレーション後の心エコー図パラメータの経時的変化。日本超音波医学会 第 89 回学術集会、京都、2016 年 5 月 27-29 日

Ishihara T, Iida O, Fujita M, Masuda M, Okamoto S, Nanto K, Kanda T, Tsujimura T, Sunaga A, Okuno S, Matsuda Y, Yanaka K, Ohashi T, Kawai H, Tsuji A, Hata Y, Uematsu M：Successful Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion with 3D Wiring Technique CTO Club. The 17th Seminar of Angioplasty of Chronic Total Occlusions, 名古屋、2016 年 6 月 17-18 日

南都清範、飯田 修、石原隆行、高原充佳、曾我芳光、平野敬典、山内靖隆、全 完、川崎大三、横井宏佳、上松正朗：「Long SFA CTO の治療成績と改善策」大腿膝窩動脈慢性完全閉塞に対する薬剤溶出性ステントの 2 年治療成績の検討 (真腔群及び偽腔群の比較検討)。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 7-9 日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：シロリムス溶出性ステントとゾタロリムス溶出性ステントの留置 1 年以降の血管内視鏡学的検討。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 8 日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、

須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：下肢閉塞性動脈硬化症患者の腸骨動脈病変に対する自己拡張型ナイチノールステント Epic 留置後 1 年の臨床成績。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 9 日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：Polyvascular Disease と下肢閉塞性動脈硬化症患者における冠動脈疾患の影響。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 7-9 日

奥野翔太、飯田 修、白記達也、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：石灰化の重症度が浅大腿動脈病変に対する血管内治療後の臨床転帰に与える影響に関する検討。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 9 日

奥野翔太、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、白記達也、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：シロリムス溶出性ステント留置後 10 年の臨床成績。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 7-9 日

谷仲厚治、飯田 修、臚居祐輔、曾我芳光、藤原昌彦、横井良明、岡本 慎、石原隆行、南都清範、白記達也、上松正朗：大腿膝窩動脈のステント再狭窄に対する血管内治療後の再々狭窄の検討。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 8 日

谷仲厚治、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、白記達也、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、大橋拓也、上松正朗：大腿膝窩動脈領域における血管内治療後の開存率に総大腿動脈の収縮期最大血流速度が与える影響。第 25 回日本心血管インターベンション治療学会、東京、2016 年 7 月 8 日

増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：Impact of left atrial substrate on atrial tachyarrhythmias after pulmonary vein isolation. 第 63 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌、2016 年 7 月 14-17 日

Sunaga A, Masuda M, Fujita M, Iida O, Okamoto S, Nanto K, Ishihara T, Kanda T, Tsujimura T, Uematsu M：The association between the right ventricular lead position at the tricuspid valve leaflets and worsening tricuspid regurgitation. A prediction using the lead deflection on X-ray. 第 63 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌、2016 年 7 月 14-17 日

松田祥宏、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：Serum n-3 polyunsaturated fatty acid levels were not associated with the rate of recurrence after radiofrequency catheter ablation of atrial fibrillation. 第 63 回日本不整脈心電学会学術大会、札幌、

2016年7月14-17日

岡本 慎、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、上松正朗：Cogan 症候群に伴う足壊疽に対し血管内治療を施行するも膝下切断を要した症例。TOPIC2016—Tokyo Percutaneous cardiovascular Intervention Conference, 東京、2016年7月21-23日

奥野翔太、石原隆行、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：川崎病罹患後の冠動脈に発生したセグメント狭窄に対して第2世代薬剤溶出性ステント留置し良好な血管治癒を観察し得た一例。第42回バリエリアハートカンファレンス、大阪、2016年8月6日

南都清範、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、吉龍正雄、溝口裕規、上松正朗：傍腎動脈腹部大動脈瘤に対するチムニーテクニックを併用したステントグラフト内挿術の治療成績。第64回日本心臓病学会学術集会、東京、2016年9月23日

須永晃弘、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、南都清範、石原隆行、神田貴史、上松正朗：経胸壁3D心エコー図による右室リードの三尖弁通過部位の検討。第64回日本心臓病学会学術集会、東京、2016年9月25日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：血管内視鏡による慢性期における第2世代ゾタロリムス溶出性ステントと第1世代シロリムス溶出性ステント留置後の血管内性状の比較検討。第64回日本心臓病学会学術集会、東京、2016年9月25日

奥野翔太、飯田 修、白記達也、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：Peripheral Arterial Calcification Scoring System (PACSS) を用いた、血管石灰化が浅大腿動脈新規病変に対する血管内治療後の臨床転帰に及ぼす影響に関する検討。第64回日本心臓病学会学術集会、東京、2016年9月23日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：血管内視鏡による慢性期の第2世代ゾタロリムス溶出性ステントと第1世代シロリムス溶出性ステント留置後の比較検討。第30回日本心臓血管内視鏡学会、西宮、2016年10月1日

奥野翔太、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：血管内視鏡による第1世代シロリムス溶出性ステント留置5年以降の血管内性状の検

討。第30回日本心臓血管内視鏡学会、西宮、2016年10月1日

神田貴史、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、奥野翔太、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：(E/e')/SV is a better predictor of outcome than E/e' in patients with heart failure with preserved left ventricular ejection fraction. 第20回日本心不全学会学術集会、札幌、2016年10月7-9日

大橋拓也、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、奥野翔太、谷仲厚治、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：Catheter ablation for AF in an acute phase was effective in a case of acute decompensated heart failure. 第20回日本心不全学会学術集会、札幌、2016年10月7-9日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：A case complicated with intravascular ultrasound catheter entrapment after coronary artery stenting. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT 2016)、神戸、2016年10月20-22日

奥野翔太、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：Intravascular Status beyond 5 Years Following the First Generation Sirolimus-eluting Stent Implantation. Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT 2016)、神戸、2016年10月20-22日

#### B-6

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：左回旋枝のカバードステントを留置4年2ヶ月後に光干渉断層法と血管内視鏡にて観察しえた一例。近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL)、京都、2016年4月21-23日

奥野翔太、石原隆行、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、白記達也、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：川崎病罹患後の冠動脈に発生したセグメント狭窄に対して第2世代薬剤溶出性ステント留置し良好な血管治癒を観察し得た一例。近畿心血管治療ジョイントライブ (KCJL)、京都、2016年4月21-23日

石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：下肢動脈の金属ステント留置後の血管治癒を留置81日後に病理学的に検討しえた一例。第121回日本循環器学会近畿地方会、京都、2016年7月16日

奥野翔太、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、白記達也、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：当院における第一世代シロリムス溶出性ステント留置10年後の臨床成績の検討。第121回日本循環器学会近畿地方会、京都、2016年7月16日

大橋拓也、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、奥野翔太、谷仲厚治、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：徐脈性心房細動に対しペースメーカー植込み術施行後に急性心不全を発症した一例。第 121 回日本循環器学会近畿地方会、京都、2016 年 7 月 16 日

石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：エベロリムス溶出性ステントとゾタロリムス溶出性ステントの留置後早期の血管内性状の検討。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

南都清範、飯田 修、藤原昌彦、鱸居祐輔、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、奥野翔太、松田祥宏、大橋拓也、畑 陽介、辻 朱紀、河合弘幸、上松正朗：慢性腹部大動脈閉塞に対する血管内治療の長期成績と再狭窄規定因子の検討。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：左前下行枝の慢性完全閉塞性病変に対する経皮的冠動脈形成術施行時に血管内超音波カテーテルが stuck した 1 例。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

辻村卓也、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：第 2 世代ゾタロリムス溶出性ステントと第 1 世代シロリムス溶出性ステント留置後の慢性期における血管内視鏡的検討。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

谷仲厚治、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：左冠動脈のステント内再々狭窄病変に対しエキシマレーザーと薬剤溶出性バルーンの併用治療が有効であった 1 例。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

谷仲厚治、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：傍腎動脈腹部大動脈瘤に対するチムニーテクニックを併用したステントグラフト内挿術の初期成績。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

奥野翔太、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻

村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：パクリタキセル溶出性ステント留置 8 年後に血管内視鏡にて血管内性状を観察し得た一例。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

奥野翔太、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：血管内視鏡による第 1 世代シロリムス溶出性ステント留置 5 年以降の血管内性状の検討。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

辻 朱紀、南都清範、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、畑 陽介、上松正朗：肝細胞癌術後のソラフェニブ内服中に発症した左冠動脈主幹部急性心筋梗塞の 1 例。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

辻 朱紀、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、畑 陽介、上松正朗：破裂性腹部大動脈瘤に対してチムニー法を併用した緊急ステントグラフト内挿術を施行し、救命しえた 1 例。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

畑 陽介、石原隆行、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、上松正朗：心筋シンチグラフィにて心筋虚血陰性であった冠動脈三枝病変の一例。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

畑 陽介、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、上松正朗：当院における腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の治療成績。第 27 回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会、豊中、2016 年 10 月 8 日

石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、奥野翔太、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：急性心筋梗塞に対するプラチナクロムエベロリムス溶出性ステント留置後亜急性期の血栓性の検討。第 122 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016 年 11 月 26 日

南都清範、飯田 修、藤原昌彦、鱸居祐輔、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、奥野翔太、松田祥宏、大橋拓也、畑 陽介、辻 朱紀、河合弘幸、上松正朗：慢性腹部大動脈閉塞に対する血管内治療の長期成績と再狭窄規定因子の検討。第 122 回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016 年 11 月 26 日

神田貴史、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、須永晃弘、辻村卓也、松田祥宏、奥野翔太、谷仲厚治、大橋拓也、上松正朗：Gore-TexR で被覆した ICD 植込み後に、一過性ショックインピーダンス上昇を認めた一例。第 122 回日本循環器学会近

畿地方会、大阪、2016年11月26日

奥野翔太、石原隆行、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、南都清範、神田貴史、辻村卓也、須永晃弘、谷仲厚治、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：第3世代シロリムス溶出性ステント留置5ヶ月後に石灰化結節を認めた急性冠症候群の1例。第122回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016年11月26日

松田祥宏、増田正晴、藤田雅史、飯田 修、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：長期間続く完全房室ブロックに対する生理的ペーシングが不快なために一時的にVVIペーシングを選択した一例。第122回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016年11月26日

谷仲厚治、飯田 修、藤田雅史、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：急性冠症候群に留置した第2世代薬剤溶出性ステント留置後早期の血管治癒の検討。第122回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016年11月26日

河合弘幸、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、辻 朱紀、畑 陽介、上松正朗：急性期に心筋組織に好酸球浸潤を認めず、診断治療に苦慮した好酸球性心筋炎の一例。第122回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016年11月26日

辻 朱紀、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、畑 陽介、上松正朗：甲状腺機能低下症を契機とした慢性心不全急性増悪に対してCRT-Dへのアップグレードが奏功した一例。第122回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016年11月26日

畑 陽介、藤田雅史、飯田 修、増田正晴、岡本 慎、石原隆行、南都清範、神田貴史、須永晃弘、辻村卓也、奥野翔太、松田祥宏、谷仲厚治、大橋拓也、河合弘幸、辻 朱紀、上松正朗：感染を合併した重症虚血肢に対して緊急デブリードマン及び血行再建を施行し救肢を得た一例。第122回日本循環器学会近畿地方会、大阪、2016年11月26日